

Forum in Imabari 「ひろばとコミュニティー」

■講演：講師
古谷 誠章氏（早稲田大学創造理工学部教授）
岡河 貢氏（広島大学工学研究院 建築設計学研究室 准教授）

■市民とともにワークショップ
「生かそう！まちなか空間」
コーディネーター
前田真（愛媛大学社会連携推進機構教授
地域連携コーディネーター）

第2回 四国建築賞 2016 表彰式 <http://www.jia-shikoku.org>

それぞれの四国らしさ、風土性、社会性、歴史性、文化的文脈が受け継がれ、昇華された建築とは優れた建築文化や環境形成、地域の発展に寄与した建築作品を設計し、地域活動を展開されている建築家、個人、団体を顕彰
審査員長 古谷誠章

今治まちなか見学会 自由参加

今治ラヂウム温泉・みなと交流センター（はーぱりー）・庁舎周辺

午前10時30分 今治市民会館玄関前集合 見学12時まで

2016
10/8 土曜日

今治市民会館大会議室
入場無料（事前申込不要）

■ 四国建築賞表彰式 13:00～14:00

■ Forum □ 講演 14:15～15:15

□ ワークショップ 15:30～16:45

かつて瀬戸内の海の玄関として発達した今治、1958年丹下健三は民主主義社会の象徴たる市民コミュニティーの場としての市庁舎本館・公会堂と市民広場を設計しました。その後1965年市民会館の増築においても一貫して都市空間として市民広場の役割の重要性を丹下氏は提案しています。瀬戸内海一円においても、多くの戦後モダニズム建築が今も現役で市民に親しまれ、瀬戸内独特の文化を育んできました。しかしながら、一方で中心市街地は経済活動の衰退のみならず、コミュニティーも縮小し魅力に欠けるまちとなっています。今治市ではみなと再生事業として「みなと交流センター」の整備を行い、港からまちなかの再生へと賑わいの創出、情報発信を推進してこうとしています。

今治市内には丹下の建築よりさらに古い唯一戦災を免れ戦前、戦中、戦後と市民に親しまれた国登録有形文化財答申中のラヂウム温泉といった建築も現存しています。まちなかで展開される活動やコミュニティーが過去、現在、未来と豊かに重層するまちとはどういうまちなのか、先達の描いたまちの未来を検証し、庁舎、市民会館と公会堂、3つの建築に囲まれた市民広場、さらには対面する大通りと港という都市計画的構成などについて、その意味と役割、利活用の可能性、次世代にいかにかきた継承をすべきか、市民主体の公共空間のあり方を探っていきたいと思います。フォーラムの趣旨をご理解の上たくさんのご参加をお願いいたします。



主催：（公社）日本建築家協会四国支部 十 今治市民ひろばを考える会

後援：（一社）日本建築学会四国支部愛媛支所（公社）愛媛県建築士会（一社）愛媛県建築士事務所協会 瀬戸内アーキテクチャーネットワーク

問い合わせ：（公社）日本建築家協会愛媛地域会事務局 〒791-1131 松山市窪野町 407 mail: jia.ehime.nkk@gmail.com